

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム とどろき

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500296		
法人名	花巻農業協同組合		
事業所名	グループホーム とどろき		
所在地	〒025-0132 岩手県花巻市北笹間13地割71番地		
自己評価作成日	令和4年11月25日	評価結果市町村受理日	令和5年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした共用ホールと談話室や各居室があり、各利用者様がそれぞれに好きな場所で過ごされていらっしゃいます。平均年齢が90歳と高齢化していますので、個々の体調に応じてADL維持の為に軽体操やリハビリを兼ねたレクリエーションを取り入れて行っています。また入浴以外に足浴を行い、血行改善や皮膚疾患の予防に繋げている方もいらっしゃいますし、利用者様の思いに沿ったケアの実現に向けて、センター方式のアセスメントに取り組み始めたところ です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

花巻市西部の田園地帯にあって、運営法人である農業協同組合内の健康福祉部の一組織として開設して5年目を迎え、この間の運営状況を振り返り、「目くばり、気くばり、思いやり」を理念とした開設時の思いに立ち返り、新たな視点を加えながら地域に住む人々にとってなくてはならない事業所として歩んでいこうとしている。そのため、この春から運営法人内の健康福祉部に新たに業務統轄管理者を設置し、事業所の運営を牽引・後押しする体制が出来上がっている。コロナ禍で外出もままならない中において、職員で組織する行事委員会が企画し、広い事業所を活用したミニ運動会などを行ない利用者の健康保持と気分転換を図っている。また利用者の体調に合わせた食事を提供したり、柔軟性に富んだ素材の床暖を活用して転倒時の怪我の防止に努めるなど、訪問看護師と連携した健康管理に重点を置いた介護に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲示しており、朝礼や定例会で唱和を行い、皆で共有して実践に繋げています。	開設時に定めた「目くばり、気くばり、思いやり」を柱とする理念をホールに掲げている。管理者は開設5年の節目に当たり、事業所運営等改善の一環として理念の見直し等について職員にアンケートしたが、コロナ禍が収束し地域との交流が再開できた段階で検討することが適当などとして、職員のほとんどは見直しに消極的であったとしている。管理者は、理念に対する職員の思いにまだ差があると感じている。	理念が目指す介護やその実践の在り方について研修の機会を設け、改めて職員の意識の高揚に努めることが望まれます。また新規の転入者については、その都度同様の研修を行うことが必要と考えます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域への広報配布、学童との交流継続、地域の祭りで立ち寄り頂けるよう声掛けしたり、地域女性部へボランティアの働きかけをして活動しました。	以前から交流のあった「笹間学童クラブ」とは、コロナ禍にあっても子どもたちが作ったアルミ缶工作が届き、利用者はお礼のお手紙を託している。コロナ禍の収束を待って、管理者は、JA女性部を「中心としたボランティアの「お茶会」や近隣の保育園との交流を計画したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回発行の広報紙を振興センターや近くのJA支店、学童クラブに配布し、施設の様子を発信し始めたところです。本人ミーティングの可能性など検討中です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、外部評価の結果を受けての意見や地域の情報を参考に取り組んでいます。また議事録等を誰でも見れるようにしています。(一回コロナクラスター発生のため開催中止しています)	コロナ禍であるが、事業所以外の会場で参集での会議を継続している。入居者家族のほか、民生委員、行政区長、地域住民、地域包括支援センター職員を委員とし、入居者の状況やヒヤリハット事例、外部評価報告書などについて報告し、医療と介護の連携等の課題についても、活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点などを市の長寿福祉課や地域福祉課に相談し、情報交換しています。	市や地域包括支援センターとの窓口は管理者が担当し、ケア倶楽部(ネット)で行政情報の伝達を受けたり、コロナ禍の保健用品の手当など、頻りに協議を行ないながら事業所にとって有益な支援を得ている。要介護認定の代行申請等で窓口に出向いた際は、利用者の状況も直接報告するなど、双方の協力関係は築かれている。	

事業所名 : グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を設け、定期的に報告。センサーマット使用時はご本人・ご家族に説明と了承を得ています。また身体拘束の研修を行っています。	これまで身体拘束適正化要領に基づき委員会を開催してきたが、本年4月からそれを指針に改め、身体拘束適正化に努めている。職員への研修は、JA健康福祉部として年2回ウェブで行っている。車椅子利用者等の4名は、居室ベッドからの立ち上がり時の転倒リスク等を避けるため、家族の了承を得て離床センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員が研修を受け理解を深めています。また対応時の言動で気になる時は互いに注意し、職員のメンタル面での変化にも気を付けています。8月に虐待防止に関する指針を策定し、虐待防止委員会の設置を行いました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受講し、制度理解を深めています。今は、成年後見が必要な事例はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては説明の途中で質問等を伺いながら理解と納得を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中で希望・要望があれば可能な限り叶えるよう支援しています。ご家族とも面会時や電話等で伺って対応しています。	本年春から始めた利用者の体調、暮らしぶりを簡単に記載した「毎月の様子」は、家族から好評であり、面会が思うに任せられない現状にあって、利用者・家族・事業所にとって有益なツールとなっている。家族の要望等は、日常生活用品を持参した際に伺うようにしているが、運営に関する要望等はない。利用者の要望は、出かけたとか食事に関するリクエストが大半であり、出来る範囲で意向に沿っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートや毎日の申し送り、月1回の定例会や定期的な面談をして意見を伺い、出来る部分から少しずつ反映しています。	職員の意見は、定例の職員会議等で把握しており、スリーモーターのベッドの導入についての提案があり、既に具体化している。事業所の懸案事項については、職員アンケートとして意見を募っており、最近では、理念の見直しと看取りの実施について行った。	

事業所名 : グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	満足している職員と、環境が整っていない部分があると感じている職員がいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務でその都度指導を行い、研修への参加を積極的に勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協議会には、コロナウイルス感染拡大のため参加出来ませんが、状況をみて参加していく予定です。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント資料等を基に、コミュニケーションを多く持ち、表情や仕草にも気を遣って思いを聞き取る努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前のアセスメントを丁寧に聴き取り、ご家族の方と密接に連絡を取りながら関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報収集に努め、カンファレンス等で職員間で適切なサービスを提供出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リズムを観察し、関わりの中でその人らしい生活が出来るよう意識し、取り組んでいる。努めている。ご本人が出来る事に着目し、お手伝いの環境を整えています。お互いに「ありがとう」の声掛けしてます。		

事業所名 : グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月居室担当者が状況報告書作成してご家族に送付しています。またご家族の要望に出来るだけ応じるようにしていますし、ご家族の話題を出して会話をすることもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に散髪に行かれたり、状況に応じて自宅への外泊も支援しています。	家族との縁が途切れることがないよう、家族の同意を前提に家での外泊を勧めており、感染防止に留意しながら可能であれば、少しずつ実績を増やしていきたいと考えている。年齢的なこともあるが、家族以外の知人の訪問がないことが課題と捉えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握し気の合う利用者同士が関わられるようテーブル配置等工夫しています。またレクリエーションを通して交流出来るよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方にはご家族や病院と連絡を取り、退院後のフォローをしています。退居後の相談はありませんが、必要に応じて対応させていただきます。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報、日々の言動を記録して一人ひとりの思い・意向の把握に努め、またそれを職員間で共有しています。	殆どの利用者は自分の思いを伝えることが出来る。難しい方は、仕草や表情で意向を推し測っている。入居時にセンター方式を活用して、その人の生活歴等を把握しており、毎月巡回してくる市の移動図書館からは、利用者の好きだったり親しみを持っている花や風景の写真集、料理、絵画、シルバー川柳の本を借りている。絵をたしなんでいた方の作品を談話室と居室に飾っているが、残念だがもう絵筆を取る意思はみられないとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント情報からこれまでの暮らし状況を把握。また入居後もご本人との会話から把握に努めています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らし状況の記録や申し送りにより情報共有して把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が作成したアセスメントシート等や、状態変化時や定期的カンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成しています。	入居時に暫定の介護計画を作り、その後居室担当者がアセスメントシートを作成し、3ヵ月毎に目標の達成状況や身体状況等について職員カンファレンスを行なっている。ケアマネはそれらを基に、訪問看護師のアドバイスも参考にしながら、介護計画の作成、見直しを行っている。	理念の実践を進める上で、理念が求めるものを介護計画の目標の一つとすることについて、検討しては如何でしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、タブレットで何時でも見れるようにし情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況により、取り組むよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容、訪問歯科、移動図書館の利用や地域の女性部の協力で庭作りを行いました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や状態変化時の受診時は家族へ報告し、医療との連携を図っています。状況によって受診時同席。週1回の訪問看護所持や状況変化時は状態報告し指示を仰いでいます。	入居前からのかかりつけ医には、6名の利用者が家族同伴で受診している。その際には、個別に利用者の生活状況等を記載した通院記録を託し、受診結果は家族から伺っている。他の3名は事業所の協力医に職員同伴で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間の体調や質問事項等を記録しておき、週1回の医療連携で訪問看護に健康状態についてアドバイスをいただいています。また必要に応じて電話で相談したり受診に繋げています。		

事業所名 : グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には在宅情報を作成して病院に情報提供しています。また退院時のカンファレンス等があれば出席していますが、まだ関係づくりまでには至っていません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に、重度化ケア方針と最後の迎え方についての希望を伺っています。現時点では施設での看取りは行っておりませんが、将来的には取り組んでいく必要があると思っています。	入居時に重度化に向けた指針をもとに、看取りを行っていないことを前提に、最期を迎える場所の希望等を伺っている。最近、家族と話し合い介護度3以上で特養への入所申請を勧めている。管理者は、いずれ看取りを行うことになるとしながらも、現状、職員は看取りそのものへの不安や人手不足を理由に消極的としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDは年1回講習会を実施しています。応急手当や初期対応の研修は定期的に行っていますが、訓練は行われていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行っています。今年は実際に暗い状況の下で夜間想定避難訓練を実施。同じ敷地内の支店や近隣に居住するJA関係者の協力をいただく事となっています。	ハザードマップの指定はなく、火災を想定した訓練を年に2回実施し、うち1回は遅番と準夜の職員2名が対応する夜間想定訓練とした。消防署から居室毎の避難完了の目印を明確にする必要がある旨の指導を得ている。避難場所は隣接する「振興センター」となっているが、管理者は、施設外に避難した利用者の見守りについて、運営推進会議メンバーと協議したいとしている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴、性格等を把握し、その方に合った言葉かけ(方言)や対応をしています。教師をされていた方には、職員が生徒の立場で会話すると納得されたりします。	利用者の尊厳等を確保するため、毎年JA健康福祉部主催の接遇研修を行っている。理念の「目くばり、気くばり、思いやり」を基本とした介護を指向してはいるが、引き続き努力が必要としている。利用者は、洗濯物の干し方、畳み方などの手伝いをしているが、年齢的なこともあり、これまでに培ったスキル等を活かしている人はいない。	
----	------	--	--	--	--

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物やテレビ番組、音楽の選択等、その都度希望を伺って対応しています。意思表示が難しい方は表情等で推察します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思確認しながら身体状態に合わせて、可能な限り希望に沿って過ごして頂くよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時の整髪や衣類の調整、手直しを手伝っています。爪切り・散髪の定期的支援。また行事で化粧や着物を着る機会を作りました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は行えていませんが、おしぼりの準備や食後の食器拭きを行っています。また時折おやつつくで一緒に作っています。誕生日には希望に沿ったメニューにしたり、季節の行事の際にはそれにちなんだメニューを提供しています。	調理担当職員の勤務状況に応じて、朝食と昼食のおかずには調理済み食品を活用している。利用者のお手伝いはおしぼり置き程度となっている。お茶碗とお箸は利用者が持参したものを使っている。行事食は全て事業所で企画、調理しており、中でも五目ちらしが好評で、誕生会のケーキも喜んでくれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量のチェック・記録をしながら、栄養補助食品等の提供や好みの水分の提供で必要な栄養・水分量が取れるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けし、見守りや一部介助で行っています。出来るだけご本人に行って頂きますが、手直しが必要な方には介助しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックし、一人ひとりの排泄パターン、習慣に沿って声掛けしトイレ誘導しています。出来る行為はご自身で行って頂き、見守りや一部介助で支援しています。	寝たきりに近いオシメ使用の1名を除き、他はリハビリパンツと必要に応じパットを使用し、職員の声掛け誘導によりトイレで排泄している。夜間は職員に見守ってもらいながら、ほとんどは自分でトイレに立っている。職員は利用者の自立に向けて努力しているが、管理者は現状を見るとこれ以上の改善は難しいのではないかとしている。	

事業所名 : グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックしながら水分調整や便秘薬の調整をしています。毎日のラジオ体操や必要に応じて排泄サポートを行い、腹部マッサージ等も実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	主に午後の入浴で、曜日は施設側の都合になっています。ただ入浴の声掛けでは本人の意向に沿って時間をずらしたり、別の日に振り替えたりしたいです。	毎週2回、月曜日から土曜日の午後、1人20～30分程度、準夜の職員の介助でゆっくり入浴している。入浴は職員とのコミュニケーションや肌疾患の確認の機会となっている。入浴を嫌がる場合には、時間や曜日を替えて対応している。車椅子利用者の3名は機械浴としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望で、室温・明るさ・衣類や寝具の調整を行っています。また体調に合わせて休憩時間を設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書、医師からの指示等の情報共有しています。症状変化時は訪問看護や主治医に報告して指示を仰いでいます。また服薬しやすいように、ゼリーやトロミを作り個々に対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ、散歩等で外気浴を行ったり、お茶時間や希望時は好きな物を選んで頂き提供しています。生活支援では、食器拭き、洗濯たみ等一人ひとりの力に合わせ行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見ドライブや地域のイベントに可能な限り出掛けるように努めています。その際、地域の方に情報提供や駐車スペース確保を頂いています。	春は北上市郊外の桜、秋は近郊での紅葉狩りに小人数に分かれて連れ出しているが、普段はコロナ禍に加え加齢のためか戸外に出かけたがらず、寒いと言ってホール内で日向ぼっこをしていることが多い。そのため、毎日の軽体操に加え、行事担当職員がミニ運動会や農作業が終わる時期の「庭払い」の余興を企画し、みんなで身体を動かす機会を少しでも多く作っている。	

事業所名 : グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望され、ケア上必要な方には所持して頂いてましたが、現在は希望している方はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	職員が番号を押して、ご本人に代わって出て頂く事があります。ご家族にハガキでお便りを出された方もいらっしゃいました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせますよう、エアコンや加湿器を活用して温度・湿度等に配慮しています。またホールの壁面には職員と利用者様が一緒に制作した季節の飾りを装飾し、季節感を感じて頂いています。	天井が高く南側に大きな窓があり、10畳ほどの小上がりも備えられた居間兼食堂は20坪以上もあり、廊下も幅1間半と事業所全体に面的なゆとりがある。利用者は、エアコン、床暖房、加湿器で快適に空調された中で、移動図書館から借りた本を読んだりしながら、ゆったりと過ごしている。窓際には利用者が植えた鉢植えが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや談話室、廊下のいたる所にソファを設置し、自由に寛げるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人・家族と相談して衣装ケース等自宅で使用していた物を持参し、安心出来るようにしています。家族写真を飾っている方もいらっしゃいます。	8畳ほどの居室には「ぎんが」や「かけはし」などの水稲品種名が付けられている。、エアコン、加湿器、ベッド、椅子が備え付けられ、利用者は、衣装ケースを持ち込み、壁には手作りの装飾品や自作の絵画などが飾られている。どの居室も更にもう1台ベッドを入れる程の余裕がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	モニターもチェックしながら出来るだけ行動を抑制せず、危険個所には防具を取り付ける等、安全に過ごせるよう工夫しています。		